marantz®

Integrated Amplifier

PM5004

取扱説明書

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。火災の原因になります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因になります。

接触禁止

高温注意

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する

電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。
万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

必ず実施

禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

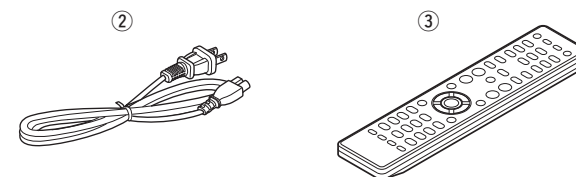
5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

付属品について

ご使用の前にご確認ください。

① 取扱説明書（本書） 1
② 電源コード【本機専用】（長さ：約1.8 m） 1
③ リモコン（RC003PM） 1
④ 単4形乾電池 2
⑤ 保証書（梱包箱に貼り付けられています） 1

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

本機の特長

電流帰還アンプ
プリアンプとパワーアンプには高速の電流帰還方式の増幅回路を採用し、スーパーオーディオ CD プレーヤーからの信号を忠実に増幅します。また、高速の電流帰還アンプは自然な音場空間を再現します。

ハイパワー出力
スリムなボディーながら、大型電源部によるハイ・パワーで音楽を躍動的に再生します。

高音質設計
信号経路の最短化や高音質パーツの採用、ゆとりのある電源回路など単品コンポーネントならではの高音質設計となっています。

レコードプレーヤーの接続が可能なフォノ入力端子
フォノアンプを搭載していますので、レコードプレーヤーをそのまま接続して楽しむことができます。（MM カートリッジのみに対応します。）（☞10 ページ）

2 系統スピーカー出力端子搭載
2 組のスピーカーを鳴らし分けるのはもちろん、中・高域、低域用に出力端子が分かれたバイワイヤリング対応のスピーカーにも簡単に接続できます。端子はオーディオ用の太めのコードも確実に接続できるスクリュー式を採用しました。また、ワンタッチで簡単に接続できるバナナプラグにも対応しています。（☞10 ページ）

トーンコントロール機能
低音域、高音域の強弱調整が可能なトーンコントロール機能を搭載していますので、システムにあわせてお好みの音質に調整できます。（☞12 ページ）

ラウドネス機能
小音量再生時に音楽を聞き取りやすくするラウドネス機能を搭載しています。（☞12 ページ）

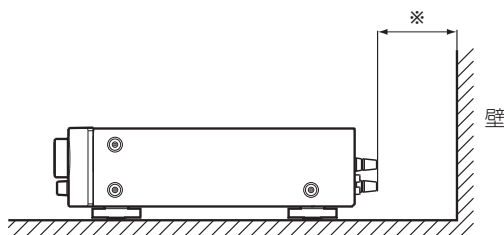
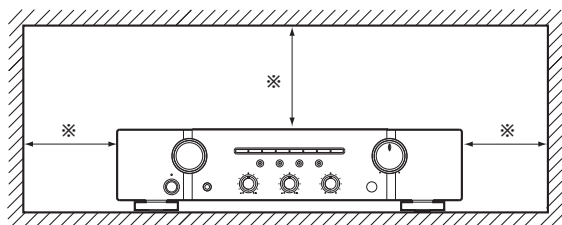
ワイヤレスリモコン付属
本機をはじめマランツの CD プレーヤーなどを操作可能なワイヤレスリモコンを付属しています。
（☞8 ページ）
また、本機は 3 組のリモコンコードを内蔵していますので、1 台ずつ別々のリモコンコードに設定しておくことで、1 箇所で 3 台の本機をそれぞれ独立してコントロールすることが出来ます。

ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他の AV 機器などとは十分に離して設置してください。

※ 30cm以上離す

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話を使用すると、雑音（ノイズ）が入ることがあります。携帯電話は本機から離れた位置でお使いください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源をオフにしたまま 1〜2 時間放置してから使用してください。

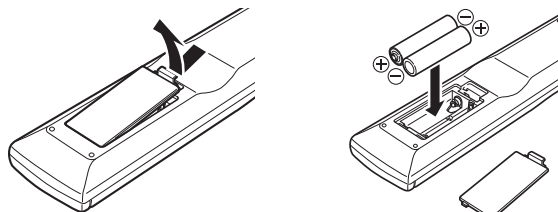
お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、やわらかい布を使用して軽く拭き取ってください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

リモコンについて

乾電池の入れかた

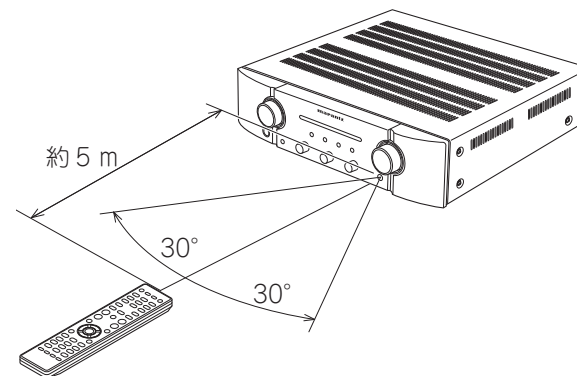
① 裏ぶたを矢印の方向に引き上げる。

② 単4形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示とおりに入れる。

③ 裏ぶたを元のとおりにする。

ご注意

- リモコンには単 4 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示どおりに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。

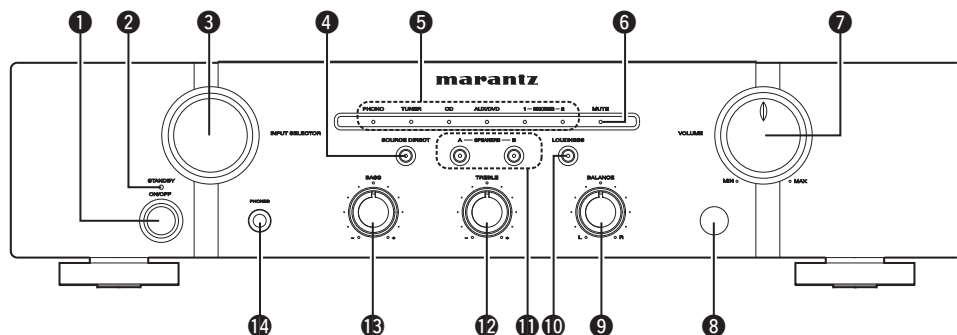
リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてお使いください。

ご注意

リモコン受光部に直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなる場合があります。

各部の名前

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

フロントパネル

❶電源スイッチ
(ON/OFF)……………………(11)

❷電源表示(STANDBY)……………………(11)
本機の状態により次のように変わります。
- 電源オン時：　消灯
- 保護回路動作時：　赤色(点滅)……………(9)
- スタンバイ時：　赤色
- 電源オフ時：　消灯

❸入力切り替えつまみ
(INPUT SELECTOR)……………………(12)

❹ソースダイレクトスイッチ/表示
(SOURCE DIRECT)……………………(12)

❺入力表示……………………(12)

❻ミューティング表示(MUTE)……………(12)

❼音量調節つまみ(VOLUME)………(11,12)

❽リモコン受光部……………………(13)

❾バランス調節つまみ
(BALANCE)……………………(11,12)

❿ラウドネススイッチ/表示
(LOUDNESS)……………………(12)

⓫スピーカー切り替えスイッチ/表示
(SPEAKERS A/B)……………………(12)

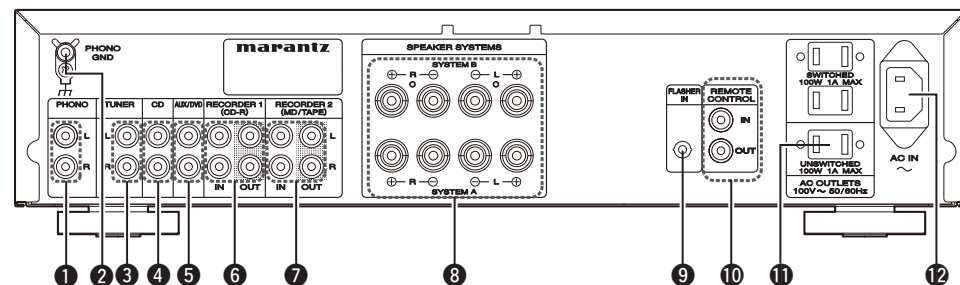
⓬高音調節つまみ(TREBLE)…………(11,12)

⓭低音調節つまみ(BASS)……………(11,12)

⓮ヘッドホン端子(PHONES)……………(12)

ご注意

⓭ 低音調節つまみ、⓬ 高音調節つまみ、❾ バランス調節つまみは、❹ ソースダイレクト表示が消灯しているとき(ソースダイレクトがオフ)に調節できます。

リアパネル

❶PHONO入力端子……………………(10)

❷PHONO GND端子……………………(10)

❸TUNER入力端子……………………(10)

❹CD入力端子……………………(10)

❺AUX/DVD入力端子……………………(10)

❻RECORDER-1(CD-R)
入出力端子……………………(10)

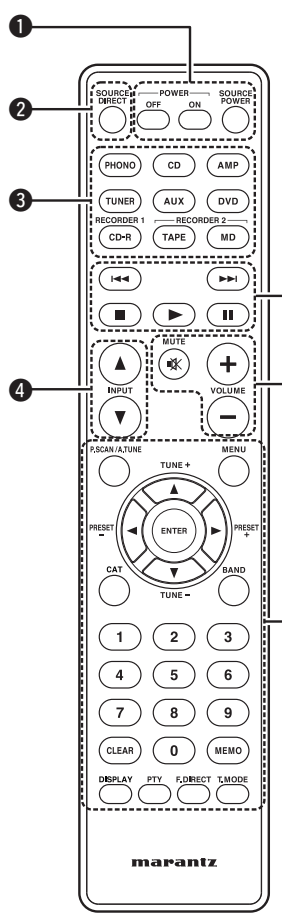
❼RECORDER-2(MD/TAPE)
入出力端子……………………(10)

❽スピーカー端子
(SPEAKER SYSTEMS)……………(9,10)

❾FLASHER IN
(フラッシャーイン)端子
コントロール BOX 等機器を使ってコントロールするときに使用する端子です。

❿REMOTE CONTROL端子……………(13)

⓫ACアウトレット(AC OUTLETS)……(11)

⓬ACインレット(AC IN)……………(11)

リモコン

本機に付属のリモコンは、本機の操作のほかにマランツ製のCD プレーヤー、チューナー、DVD プレーヤー、テープデッキの操作ができます。(「マランツ製品の操作について」(☞8ページ)をご覧ください。)

❶電源ボタン ……(11)
- POWER ONボタン
- POWER OFFボタン
- SOURCE POWERボタン
  電源スタンバイ機能があるマランツ製品の電源をオンまたはスタンバイに切り替えることができます。

❷ソースダイレクトボタン (SOURCE DIRECT) ……(12)

❸入力ソース選択ボタン ……(8)

❹入力ソース切り替えボタン (INPUT ▲/▼) ……(12)

❺プレーヤーなどを操作するボタン

❻音量調節ボタン ……(11,12)
- MUTEボタン
- VOLUME +/− ボタン

❑マランツ製品の操作について

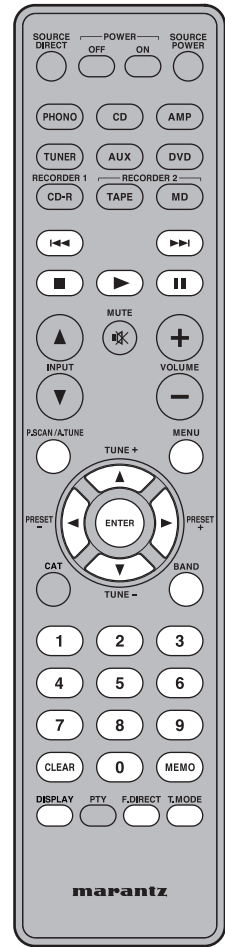
操作のしかた

1 操作する機器の ❸ 入力ソース選択ボタンを押す。
- リモコンの操作モードが、選択した機器の操作モードに切り替わります。
- 本機のファンクションが切り替わります。

2 機器の操作をおこなう。
- 操作できるボタンは右の表をご覧ください。

- リモコンの ❸ 入力ソース選択ボタンは、本機の入力ソースの選択と、リモコンの操作モード切り替えを同時におこないます。
- 本機のリモコン操作は、設定しているリモコンモードにかかわらずおこなえます。
- ご使用の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意
- 次のリモコンのボタン名とそのボタンを押して選ばれる入力ソース名は次のように異なります。

リモコンのボタン名	入力ソース名
AUX または DVD	AUX/DVD
CD-R	RECORDER1
TAPE または MD	RECORDER2

CD プレーヤー操作

操作ボタン	機能
⏮ ⏭	頭出し
■	停止
▶	再生
❚❚	一時停止
0 - 9	曲の選択
T.MODE	サウンドモードの選択

DVD プレーヤー操作

操作ボタン	機能
⏮ ⏭	頭出し
■	停止
▶	再生
❚❚	一時停止
MENU	メニュー表示
▲▼◀▶	カーソル操作
ENTER	確定
0 - 9	数値の入力
DISPLAY	ディスク情報の表示

チューナー操作

操作ボタン	機能
P.SCAN/A.TUNE	プリセットスキャン
▲/TUNE+	選曲(アップ)
▼/TUNE-	選曲(ダウン)
◀/PRESET-	プリセットチャンネルの選択
▶/PRESET+	プリセットチャンネルの選択
BAND	FM/AM 受信バンドの切り替え F
0 - 9	数値の入力
CLEAR	メモリーや入力内容の消去
MEMO	プリセット局番号の登録
F.DIRECT	ダイレクト選局
T.MODE	オートステレオ / モノラル 切り替え

ご注意

一部のマランツ製のチューナーでは、機能通りの動作をしない場合があります。

テープデッキ操作

操作ボタン	機能
⏮	巻き戻し
⏭	早送り
■	停止
▶	再生
❚❚	一時停止
CLEAR	カウンターのリセット

基本接続

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずご覧ください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルを一緒に束ねないでください。雑音の原因になります。
- PHONO端子は非常に感度の高い端子ですので、レコードプレーヤーを接続しないで音量を上げないでください。接続せずに音量を上げた場合、“ブーン”という音がスピーカーから出ることがあります。

準備

接続に使用するケーブル

ご使用になる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

接続する機器について

SA（スーパーオーディオ）ソース再生時のご注意

SAソース（DVDオーディオ、スーパーオーディオCDなどの可聴帯域を越える高域成分を含んでいるソース）に対応していないスピーカーを接続する場合は、プレーヤー（DVDプレーヤー、スーパーオーディオCDプレーヤーなど）の特性をスピーカー（またはアンプ）に合わせて設定してください。
SAソースの再生時に音量を上げすぎると、スピーカーを損傷することがあります。プレーヤーの設定については、プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

スピーカーの接続

スピーカーケーブルを接続する

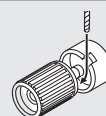
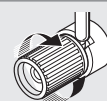
本機とお使いになるスピーカーの左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、＋（赤）、－（黒）をよく確認して同じ極性を接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の被覆を10mm程度はがし、芯線をしっかりよじるなど端末処理をおこなう。

2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

4 スピーカー端子を右に回してしめる。

バナナプラグの場合

端子を右に回して締め付けてから挿入する。

ご注意

- 接続の際、スピーカーケーブルの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーケーブルの芯線どうし、および芯線がリアパネルやねじに接触しないようにご注意ください。故障の原因となります。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

❑保護回路について

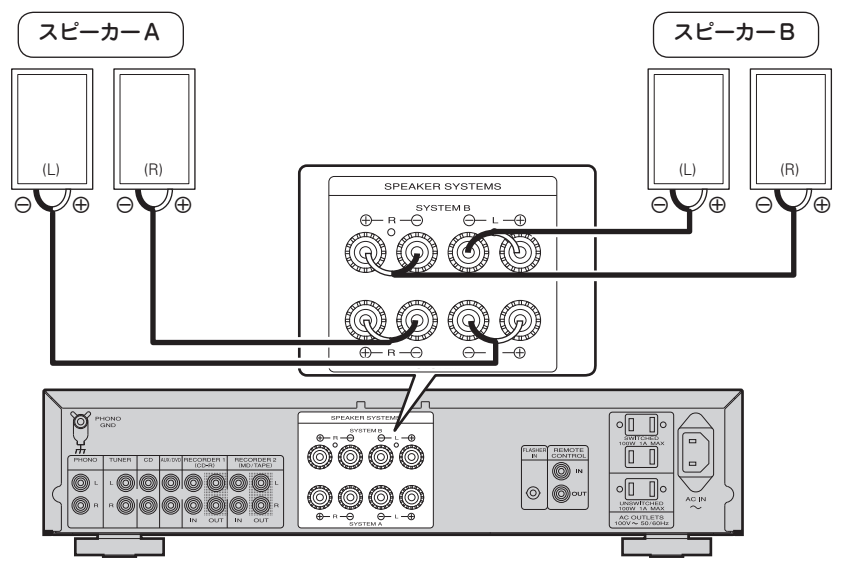
次のときに保護回路が動作します。

- スピーカーケーブルの芯線がリアパネルやねじに接触したり、スピーカーケーブルの＋、－側が接触しているとき
- 本機の周囲の温度が異常に高くなったとき
- 長時間大出力で使用して内部の温度が上昇したとき

保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示が赤色に点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの接続を確認してください。
また、本機の温度が極端に上がっている場合は、本機が冷えるのを待ち、周囲の通風状態を良くしてください。そのあと、もう一度電源コードを入れ直してください。
本機の周囲の通風や接続に問題がないのにも関わらず、保護回路が動作する場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源をオフにした上で、当社の修理相談窓口にご連絡ください。

ご使用になる前に
基本接続
基本操作
応用接続
応用操作
用語の解説
故障かな？と思ったら
保証と修理について
主な仕様
索引

スピーカーの接続

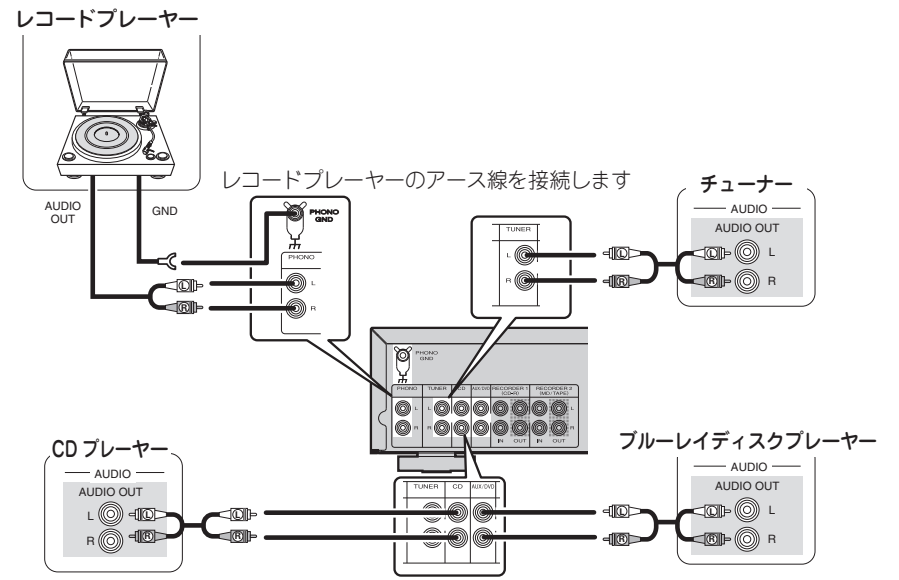
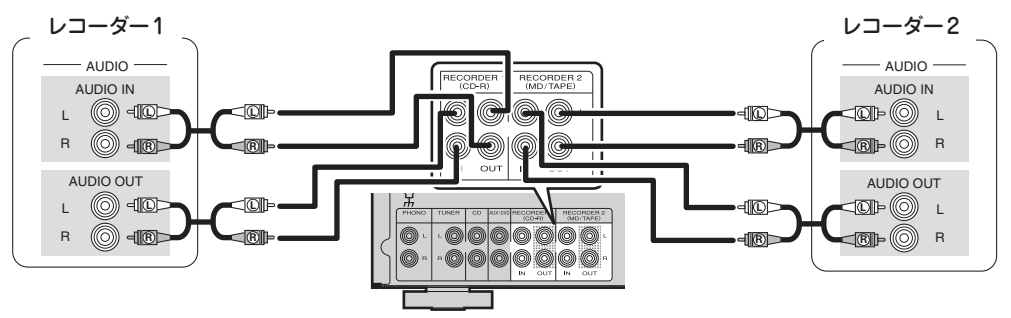
- SPEAKERS A 端子と B 端子からは同じ信号を出力します。
- スピーカーを 1 組のみ接続するときは、SYSTEM A/B 端子のどちらかに接続してください。

❑スピーカーのインピーダンスについて

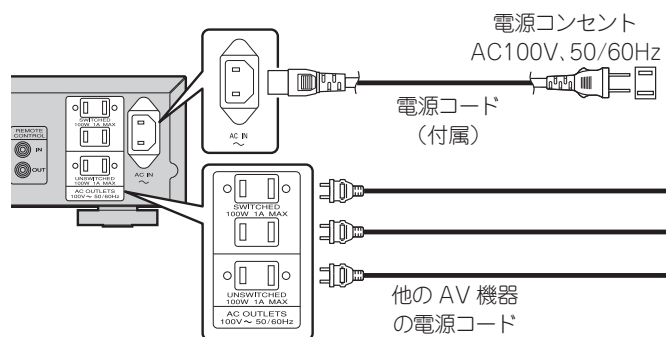
スピーカーの使用状況に応じてスピーカーのインピーダンスは次の範囲のものをお使いください。

接続するスピーカー端子	使用するスピーカーのインピーダンス
A	4～16 Ω
B	4～16 Ω
A と B の両方	8～16 Ω

再生機器の接続

接続できるレコードプレーヤーのカートリッジは、MM タイプです。MC カートリッジをお使いになる場合は、ステップアップトランスなどをお使いください。

- アース線を接続すると雑音が出る場合があります。このような場合はアース線を接続しないでください。

録音機器の接続

電源コードの接続

すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。

❑AC アウトレットへの接続について

本機の AC アウトレットから他の AV 機器に電源を供給することができます。
本機には SWITCHED と UNSWITCHED の AC アウトレットを装備しています。

SWITCHED（連動）

本機の電源のオン / スタンバイに連動し、電源供給をオン / オフします。
消費電力が合計で 100W（1A）までの AV 機器を接続できます。

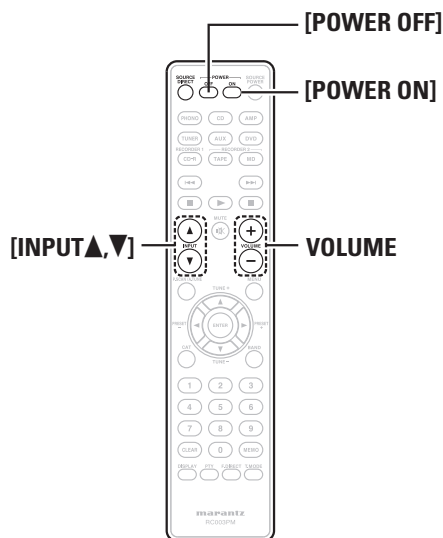
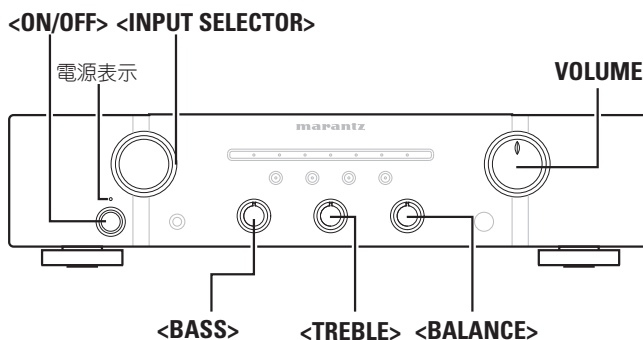
UNSWITCHED（非連動）

本機の電源のオン / スタンバイにかかわらず、電源を供給します。
消費電力が最大 100W（1A）までの AV 機器を接続できます。

⚠警告
絶対許容電力以上の機器を接続しないでください。許容電力以上の機器を接続すると、火災・感電の原因となります。

ご注意

- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な差し込みは、雑音発生の原因になります。
- AC アウトレットへは、AV 機器の電源プラグを差し込んでください。ドライヤーなど AV 機器以外の電源として使用しないでください。

基本操作

再生前の準備

1 **VOLUME で音量を最小にする。**

2 **<BASS>、<TREBLE> および <BALANCE> を中央の位置にする。**

電源をオンにする

<ON/OFF> を押す。

- 電源がオンになります。
- 選択している入力表示が点灯します。
- 数秒後に再生可能な状態になります。

電源をスタンバイにする

[POWER OFF] を押す。

- 電源がスタンバイ状態になります。
- 電源表示が赤色に点灯します。

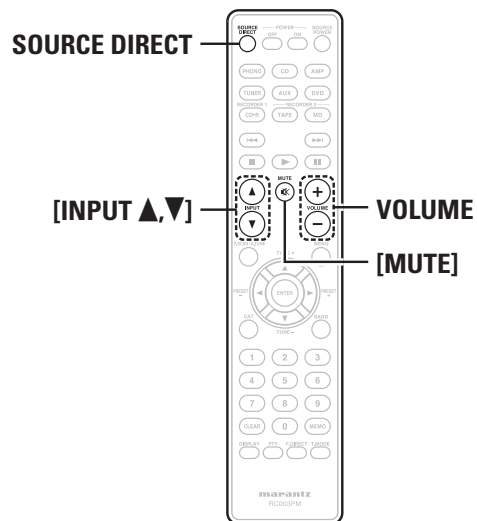
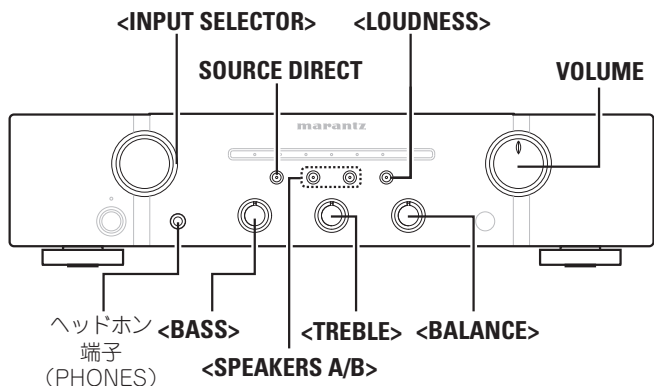
- スタンバイ状態から再び電源をオンにするには **[POWER ON]** を押してください。
- スタンバイ中に **<INPUT SELECTOR>** および **[INPUT ▲,▼]** を操作しても電源がオンになります。

ご注意

電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、**<ON/OFF>** を押して電源をオフにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源をオフにする

<ON/OFF> を押す。

- 電源がオフになります。
- すべての表示が消灯します。

接続した機器を再生する

1 <INPUT SELECTOR> または [INPUT ▲,▼] で再生するソースを選ぶ。

•選んだソースの入力表示が点灯します。

【選択できるソース】

PHONO | TUNER | CD | AUX/DVD | RECORDER-1 | RECORDER-2

•リモコンの入力ソース選択ボタンを押して、入力ソースを選ぶこともできます。
•選んだ入力ソースは電源をオフにしたあとも記憶され、電源を再び入れたときも同じソースが選ばれます。

2 <SPEAKERS A/B> を押して、再生するスピーカーを選ぶ。

•選んでいるスピーカー表示が点灯します。

3 ソースを再生する。

4 VOLUME で音量を調節する。

❏音質を調節する

•**<BASS>** 低音を調節する。
•**<TREBLE>** 高音を調節する。
•**<BALANCE>** 左右の出力バランスを調節する。

ソースダイレクトで再生する

音声信号が音質調節回路（BASS/TREBLE/BALANCE）を通らないため、より原音に忠実な再生ができます。

SOURCE DIRECT を押す。

•ソースダイレクト表示が点灯します。

音質の調節をおこなうときは **SOURCE DIRECT** をオフにしてください。

ラウドネスで再生する

低い音量で再生しているときに不足する低音や高音を、自然なバランスに補正して再生します。

<LOUDNESS> を押す。

•ラウドネス表示が点灯します。

音声をミュートする

音声の出力を止め、消音することができます。

[MUTE] を押す。

•ミュート表示が点灯します。
•もう一度押すと、音が出ます。
•ミュート中にリモコンの **VOLUME** を操作しても音が出ます。

ヘッドホンを使って聴く

ヘッドホンのプラグをヘッドホン端子に差し込む。

•ヘッドホンを使用するときは、**<SPEAKERS A/B>** を押してスピーカーの出力をオフにしてください。

❏音量を調節する

VOLUME で音量を調節する。

ご注意

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。

録音する

1 <INPUT SELECTOR> または [INPUT ▲,▼] で録音するソースを選ぶ。

2 録音機器を録音状態にする。

3 録音するソースの再生をはじめる。

• ソースの再生に合わせて録音をはじめます。

応用接続

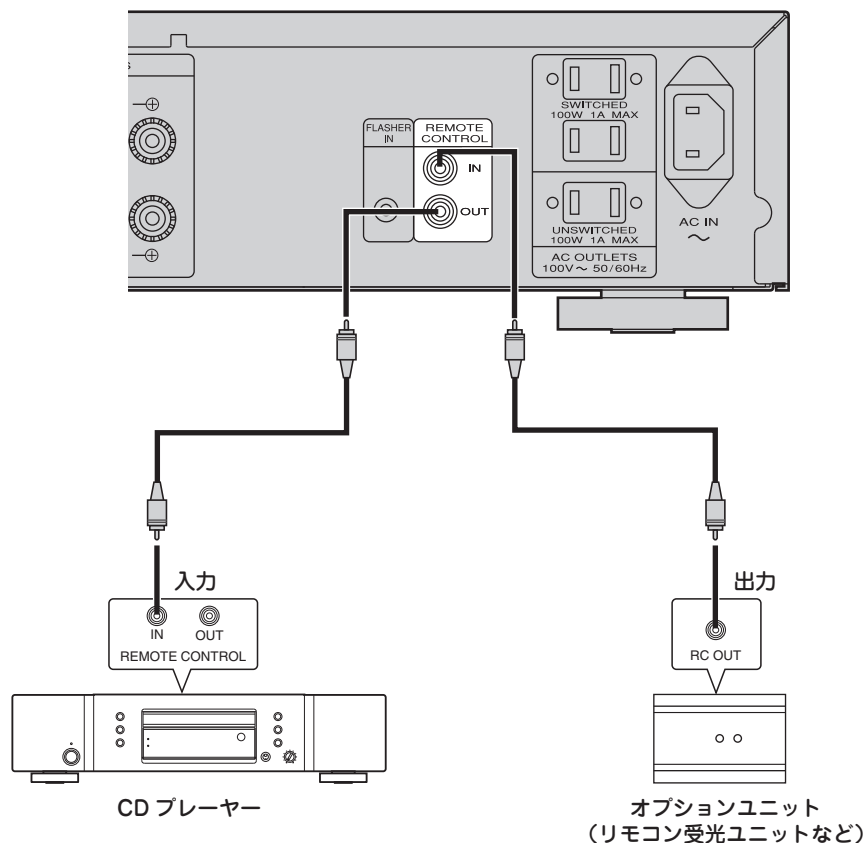
リモートコントロール端子

本機にマランツ製オーディオ機器を接続して使用するときに、本機から各機器に操作信号を送り各機器が動作します。

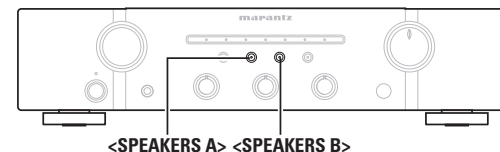
❑接続

接続するマランツ製オーディオ機器に付属しているリモート接続ケーブルで、本機の REMOTE CONTROL OUT 端子と接続する機器の REMOTE CONTROL IN 端子を接続します。

❑設定

接続している機器の背面にあるリモートコントロールスイッチを “EXTERNAL” または “EXT.” にします。
- 接続している機器はリモコン受光部の受信を停止します。
- 接続している機器を操作するときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

応用操作

リモートコントロール設定

本機の REMOTE CONTROL IN 端子にリモコン受光ユニット（別売）を接続するときは、必ず以下の操作で本機のリモコン信号の受光機能を無効にしてください。
- お買い上げ時のリモコン信号の受光機能は有効に設定しています。

❑リモコン信号の受光機能を無効にする

リモコン信号の受光機能を有効にしているときに、<SPEAKERS B> を約 5 秒間押す。

- **MUTE** 表示が 3 回点滅し、本機のリモコン信号の受光機能が無効になります。

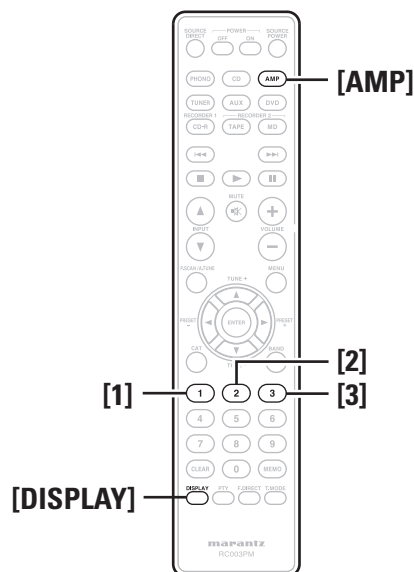
❑リモコン信号の受光機能を有効にする

リモコン信号の受光機能を無効にしているときに、<SPEAKERS A> を約 5 秒間押す。

- **RECORDER 2** 表示が 3 回点滅し、本機のリモコン信号の受光機能が有効になります。

ご注意
- リモコン受光ユニット（別売）を接続していないときは、この設定はおこなわないでください。本機をリモコンで操作できなくなります。
- リモコン信号の受光機能を無効にしているときに本機の電源コードを抜くと、リモコン信号の受光機能が有効に設定されます。

リモコンコード設定

本機と付属のリモコンには３通りの通信用リモコンコードがあります。これにより本機を複数台同じ場所でお使いになるときに、それぞれの機器とリモコンの組み合わせごとに別々のリモコンコードを設定することで、リモコン信号が干渉することなく操作できます。
- お買い上げ時のリモコンコードは"AMP1"です。

リモコンのリモコンコードを設定する

リモコンを AMP 2 に設定する

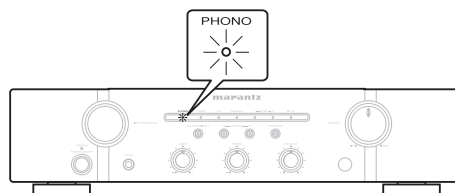
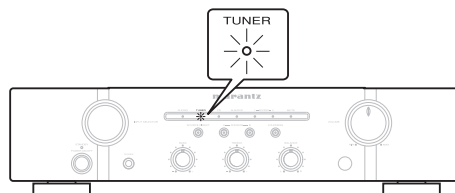
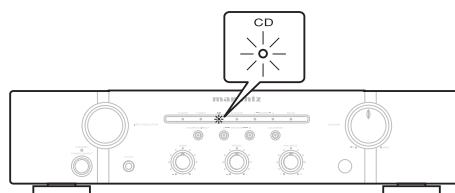
[AMP] と数字ボタンの **[2]** を 5 秒以上押す。

リモコンを AMP 3 に設定する

[AMP] と数字ボタンの **[3]** を 5 秒以上押す。

本機のリモコンコードを設定する

[AMP] と **[DISPLAY]** を押す。
- リモコンに設定しているリモコンコード信号を本機に送信します。
- 本機のリモコンコード設定の切り替えが終わると、本機は次のように表示します。

AMP1 ：PHONO 表示が 3 回点滅します。

AMP2 ：TUNER 表示が 3 回点滅します。

AMP3 ：CD 表示が 3 回点滅します。

リモコンコードの設定をお買い上げ時の設定に戻すには、**[AMP]** と数字ボタンの **[1]** を 5 秒以上押してください。

用語の解説

サ

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで、Ω（オーム）という単位であらわします。
この値が小さいほど大きな出力が得られますが、アンプにかかる負担は増えます。本機が対応しているインピーダンスのスピーカーをお使いください。

ハ

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧などの異常が起きたときに、本機の電源をスタンバイ状態にする機能です。過負荷や過電圧から本機内部の回路の破損を防ぎます。

故障かな？と思ったら

❑ **各接続は正しいですか**
❑ **取扱説明書に従って正しく操作していますか**
❑ **スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか**

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、お近くの株式会社マランツコンシューマーマーケティングの各営業所、または当社のサービスセンターにご連絡ください。

症　状	原　因	対　策	関連ページ
電源が入らない。	• 電源コードが抜けている。 • スタンバイ状態になっている。 • 保護回路が動作している。	• 電源コードの接続を点検してください。 • 本体の入力切り替えつまみを回すかリモコンの POWER ON ボタンを押してください。 • スタンバイ表示が点滅している場合は一旦電源をオフにして 1 分以上待ってから電源を入れ直してください。	11 11 9
電源は入るが、スピーカーから音が出ない。	• スピーカーの接続が不完全である。 • 入力コードの接続が不完全である。 • 入力切り替えつまみの位置が不適当である。 • 音量調節つまみが絞ってある。 • スピーカー切り替えスイッチの設定がオフになっている。 • スピーカー切り替えスイッチの選択が不適当である。 • ミュート機能が動作している。	• スピーカーの接続を点検してください。 • 入力コードの接続を点検してください。 • 入力切り替えつまみを正しい位置に合わせてください。 • 音量調節つまみを調節してください。 • 接続しているスピーカー端子のスピーカー切り替えスイッチをオンにしてください。 • 接続しているスピーカー端子のスピーカー切り替えスイッチをオンにしてください。 • ミュート表示が点灯している場合はリモコンの MUTE ボタンを押してミュートを解除してください。	10 10 12 12 12 12 12
音量が自動的にさがってしまう。	• 保護回路が動作している。	• 一旦電源をオフにして 1 分以上待ってから電源を入れ直してください。	9
片側のスピーカーからしか音が出ない。	• スピーカーの接続が不完全である。 • バランスつまみの位置が正しくない。	• スピーカーの接続を点検してください。 • バランス調整つまみを正しい位置に合わせてください。	10 12
左右の音が入れ替わっている。	• 左右のスピーカーまたは左右の入力コードの接続が逆になっている。	• 正しく接続し直してください。	10
レコード再生中にノイズが出る。	• レコードプレーヤーのアース線が外れている。 • PHONO 入力端子の接続が不完全である。 • レコードプレーヤーの近くにテレビなどがあり影響を受けている。	• PHONO GND 端子への接続を点検してください。 • PHONO 入力端子の接続を点検してください。 • 設置位置を変えてみてください。	10 10 —
レコード再生中に音量を上げるとハウリング現象を起こす。	• レコードプレーヤーとスピーカーが近すぎる。 • レコードプレーヤーの台や床が振動しやすい。	• できるだけスピーカーと離して設置してください。 • レコードプレーヤーにインシュレーターがない場合は、市販のインシュレーターを使用してください。	— —
リモコンのボタンを押しても何も作動しない。	• 電池が切れている。 • リモコンと本体が離れすぎている。 • リモコンと本体の間に障害物がある。 • 違うボタンを押している。 • 電池が正しい極性（⊕ と ⊖）で入っていない。 • 本機のリモコン信号の受光機能が無効になっている。 • 本機とリモコンのリモコンコードが異なっている。	• 新しい電池に取り替えてください。 • 本機に近づいて操作してください。 • 障害物を取り除いてください。 • 正しいボタンを押してください。 • 正しい極性で電池を入れてください。 • リモートコントロールの設定を確認してください。 • 本機とリモコンのリモコンコードを同じ設定にしてください。	6 6 6 8 6 13 14

保証と修理について

❏保証書

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは、保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、『製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内』に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

❏修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の『故障かな？と思ったら』の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の『製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内』に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

❏依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名…………取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号………保証書または製品背面（または底面や側面）に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

❏補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

❏お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様（仕様・外観寸法図）

- **定格出力：** 40W × 2（8 Ω負荷）
  （40Hz − 20kHz 両 ch 同時駆動） 55W × 2（4 Ω負荷）
- **全高調波歪率：** 0.01％
  （40Hz − 20kHz 両 ch 同時駆動、8 Ω負荷）
- **出力帯域幅：**（8 Ω負荷、0.06％） 10Hz − 30kH
- **周波数特性：**（CD、1W、8 Ω負荷） 10Hz − 50kHz ＋ 0dB、− 1dB
- **ダンピングファクター：** 100
  （8 Ω負荷、40Hz − 20kHz）
- **入力感度 / 入力インピーダンス**
  PHONO（MM）： 2.2mV/47k Ω
  CD、TUNER、AUX/DVD、RECORDER：200mV/20k Ω
- **PHONO 最大許容入力**（1kHz）
  MM： 110mV
  RIAA 偏差（40Hz − 20kHz）： ± 0.5dB
- **S/N 比**
  （IHF A ネットワーク、8 Ω負荷）
  PHONO（MM）： 83dB（5mV 入力、１W 出力）
  CD、TUNER、AUX/DVD、RECORDER：103dB（2V 入力、定格出力）
- **トーンコントロール**
  BASS（100Hz）： ± 10dB
  TREBLE（10kHz）： ± 10dB
- **電源電圧：** AC100V、50/60Hz
- **消費電力（J60065）：** 110W
- **待機消費電力：** 0.4W
- **質量（本体）：** 6.7kg

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

主な仕様（仕様・外観寸法図）

単位：mm

索引

marantz®

お客様ご相談センター

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間

9：30ー12：00　13：00ー17：00

（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「 **製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内** 」をご覧ください。

株式会社**マランツ**コンシューマー マーケティング

当社の最新情報をインターネット上でご覧ください。

http://www.marantz.jp

Printed in China　541110502119M